

## 検討報告書（たたき台）から、検討報告書（案）への変更等箇所

	検討報告書（案）	検討報告書（たたき台）
表紙	（案）	（たたき台）
目次	<p>3 学校規模等の適正化に向けて検討すべき方策</p> <p>（3）小規模特認校の<b>指定拡大</b></p> <p>（4）小中一貫校の<b>設置</b></p> <p>4 学校規模等の適正化にあたっての留意事項</p> <p>（1）通学距離・通学時間等への<b>配慮</b></p> <p>（2）学級編制への<b>配慮</b></p> <p>（5）エリア・ファミリー（幼保小中の連携）の<b>充実</b></p> <p>（6）特別な支援を必要とする児童生徒への<b>配慮</b></p> <p>（7）地域コミュニティとの<b>関わり</b></p>	<p>3 学校規模等の適正化に向けて検討すべき方策</p> <p>（3）小規模特認校</p> <p>（4）小中一貫校</p> <p>4 学校規模等の適正化にあたっての留意事項</p> <p>（1）通学距離・通学時間</p> <p>（2）学級編制</p> <p>（5）エリア・ファミリー構想（幼保小中の連携）</p> <p>（6）特別支援教育</p> <p>（7）地域コミュニティ</p>
P1 はじめに	記載	現在、策定中
P2 3行目	通学区域 <b>及び</b>	通学区域、
P2 8行目	見込ま <b>れます</b> 。	見込んでいます。
P2 12行目	見込ま <b>れます</b> 。	見込んでいます。
P2 14行目	<b>大幅に</b> 増加しています。	増加しています。
P3 2行目	市内小中学校の <b>通学距離</b> は、	市内小中学校は、
P3 10行目	大規模な改修工事を実施した学校は4校（小学校3校、中学校1校）に <b>とどまっております</b> 、	大規模な改修工事を実施した学校は4校（小学校3校、中学校1校）のみであり、
P3 12行目	設備の更新時期が集中 <b>する</b> ことが想定されます。	設備の更新時期が集中的に訪れることが想定されます。
P4 3行目	様々な影響を <b>及ぼ</b> します。	様々な影響をもたらします。
P4 16行目	グループ学習や小学校 <b>における音楽などの特定の教科のみを担当する</b> 専科教員による指導など、	グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、
P5 10行目	第2章に <b>示した</b> とおりメリットがある一方で、 <b>多くの</b> デメリットもあります。 <b>このため</b> 、デメリットを <b>可能な限り</b> 解消し教育環境を充実させるためには、	第2章の <b>とおり</b> メリットがある一方で、デメリットもあります。そうした中、デメリットをできるだけ解消し教育環境を充実させるためには、

	検討報告書（案）	検討報告書（たたき台）
P5 26 行目	なお、農村部は、地理的状況や通学時間等の <b>関係</b> から、	なお、農村部は、地理的状況や通学時間等から
P5 27 行目	複式学級は、 <b>小規模化による学習面・生活面のデメリットがより顕著となる</b> ことが懸念されるなど、教育上の課題が大きいことから、	複式学級は、教育上の課題が大きいことから、
P6 3 行目	下記のとおりと <b>しました</b> 。	下記のとおり提案します。
P6 11 行目	※農村部は、複式学級を <b>避けられる規模</b> が望ましい。	※農村部は、複式学級の解消が望ましい
P6 13 行目	・主役は子どもたちであり、 <b>一番の</b> 当事者である	・主役は子どもたちであり、1 番の当事者である
P6 17 行目	話したこともない人と <b>学校生活を送る</b> ことは良い経験になると思う。	話したこともない人と 1 年付き合うことは良い経験になると思う。
P6 25 行目 (追筆)	・複式学級は、複数の学年に先生が一人しかおらず、 <b>直接指導と間接指導を組み合わせ、複数学年を先生が行き来しながら指導する必要がある場合が多いことから、学習指導が非常に難しいものになる</b> と思う。	
P7 10 行目	・隣接校との通学区域は、時代とともに <b>変化していく</b> もので、	・隣接校との通学区域は、時代とともに <b>変化が必要</b> で、
P7 24 行目	・ <b>帯広第三中学校と帯広第六中学校の統合の際、</b>	・三中と六中の統合の際、
P7 30 行目	(3) <b>小規模特認校の指定拡大</b>	(3) 小規模特認校
P7 34 行目 から P8 4 行目 まで(追加記述)	・小規模特認校は今も小学校 2 校が <b>指定されているが、選択肢を広げるという観点からも良い制度だ</b> と思う。更に中学校でも小規模特認校に指定される学校があっても良いと思う。 ・他にはない魅力的な教育が小規模の学校で行われれば、それは新しい魅力となり、他地域からも通いたいと思うような学校になると思う。	
P8 5 行目	(4) <b>小中一貫校の設置</b>	(4) 小中一貫校

	検討報告書（案）	検討報告書（たたき台）
P8 6行目	○学びや発達など様々な面で一貫した教育を9年間行える小中一貫校（義務教育学校を含む）の設置について、	○小学校と中学校による小中一貫校（義務教育学校）の設置について
P8 13行目 （追加記述）	・小中一貫校は、学習面や生活面、部活動など様々な面で教育的効果が期待できると思う。	
P8 15行目	学校規模等の適正化に向けた検討を行う際には、	学校規模等の適正化に向けた検討を行う際、
P8 17行目	生活面への影響を可能な限り解消するような方策について	生活面のデメリットを補えるような方策について
P8 19行目	(1) 通学距離・通学時間等への配慮	(1) 通学距離・通学時間
P8 21行目	通学距離・通学時間が極端に長くないようにすることや通学路の安全確保に十分配慮することが求められています。	通学距離・通学時間が極端に長くないようにすることが求められます。
P8 25行目	・通学距離が伸びる場合は、犯罪などにあう可能性が増すことから、安全面でも親は心配すると思う。	・通学距離が伸びる場合は、犯罪などにあう可能性が増すことから、親は心配すると思う。
P8 32行目 （追加記述）	・登下校時に犯罪や事故などにあわないための安全対策は、通学距離が短くても犯罪などにあう危険性があることから、通学距離の長さとは別の問題として捉え、対処していかなくてはいけないと思う。	
P9 1行目	(2) 学級編制への配慮	(2) 学級編制
P9 7行目 （追加記述）	(再掲)	
P9 8行目 （追加記述）	・学校は社会の擬似体験の場でもあると思う。学校を卒業すると様々な考え方を持った人たちと出会うことになるので、その前に学校のクラス替えなどを通して、それまで全く知らない、話したこともない人と学校生活を送ることは良い経験になると思う。(再掲)	

	検討報告書（案）	検討報告書（たたき台）
P9 12行目	○保護者等が特に心配することは学校規模等の適正化による <b>様々な環境の変化</b> です。	○保護者等が特に心配することは学校規模等の適正化によるデメリットです。
P9 27行目 （追加記述）	・ <b>当事者である子どもたちへの説明も、適切な時期や場面でしっかり行うと良いと思う。</b>	
P10 4行目	(5) エリア・ファミリー（幼保小中の連携）の <b>充実</b>	(5) エリア・ファミリー構想（幼保小中の連携）
P10 5行目	○小中学校の9年間の学びや発達の連続性に配慮しながら、	○小中の9年間の学びや発達の連続性に配慮しながら、
P10 6行目	本市のエリア・ファミリーの <b>取り組みを充実</b> していく必要があります。	本市のエリア・ファミリー構想を十分に活かしていく必要があります。
P10 9行目	・ <b>エリア・ファミリー</b> の取り組み以前では縦の連携があまりなかったが、	・エリア・ファミリー構想は、幼保小中が中学校区ごとにエリアとして関わることである。この取り組み以前では縦の連携があまりなかったが
P10 11行目	・ <b>エリア・ファミリー</b>	・エリア・ファミリー構想
P10 13行目 （追加記述）	・ <b>エリア・ファミリーのエリアと帯広市PTA連合会のブロックでは、地区割りにズレがあるため、できるだけ一致するよう工夫すると、より両者の連携がしやすくなると思う。</b>	
P10 17行目	・中学校に進学する際、 <b>学習内容や生活リズムの変化に馴染むことができない</b> 中1ギャップが増えていると聞いているので、	・中学校に入るとき、中1ギャップを大きく感じると聞いているので、
P10 19行目	(6) <b>特別な支援を必要とする児童生徒への配慮</b>	(6) 特別支援教育

	検討報告書（案）	検討報告書（たたき台）
P10 20 行目	○現在、知的学級と情緒学級の設置は、自校化がほぼ完了しており、通学面などにおいて保護者の負担も軽減されていますが、環境の変化への適応が難しい場合もあることから、今後も特別な支援を必要とする児童生徒に配慮することが必要です。	○現在、知的学級と情緒学級は自校化がほぼ完了しており、通学面などにおいて保護者の負担も軽減されていることから、今後も特別支援学級に在籍する児童生徒の通学区域についても配慮することが必要です。
P10 28 行目 （追加記述）	・特別な支援や配慮が必要な児童生徒の中には、学校・教室の状況や友人関係などの変化により、心理的に不安となり、学校生活に適応できなくなる場合もあると思う。また、通常学級の中にも行動に注視しなければいけない子どもがいると思うので、指導体制の充実などが必要だと考える。	
P10 32 行目	(7) 地域コミュニティとの関わり	(7) 地域コミュニティ
P10 33 行目 から P11 3 行目	○子どもたちを育むうえで、学校と地域との連携は欠かせません。地域ぐるみで子どもたちを支えてもらえるよう地域への意識を深めるとともに、子どもたちのために何ができるかという地域社会の想いと融合を図ることが必要です。	○子どもたちを育むうえで、地域との連携は欠かせません。地域ぐるみで子どもたちを支えられるよう地域を巻き込みながら、子どもたちのために何ができるかを念頭に、地域社会の想いと融合を図ることが必要です。
P12 おわりに	記載	現在、策定中